

いつもお世話になっております。

今月分の請求書を送付いたしますので、何卒御査収のほどよろしくお願い申し上げます。

いつもありがとうございます。

先月のお便りで「あじさいはいつ散るのか？」と書きましたが、答えがわかりました。あじさいの花は、最盛期をすぎると鮮やかさを失い色あせてしまうため、見た目がわるくなりはじめると、ぱつぱり刈り取られてしまうのですね。今は緑の美しい葉っぱだけが青々としげっています。

先日友人と食事の約束をし、京都へ行きましたところ、ちょうど祇園祭の宵々山でした。

友人が八坂神社に行きたい！というので、食事の前に八坂さんに立ち寄ることにしました。河原町通りは歩行者天国になっていましたが、まだそれほど混んでおらず「明日以降は、もっともっとすごい人だろうね」なんて話をしながら神社に向かいました。日が暮れたばかりでまだ薄明るい境内には屋台が出て楽しい雰囲気でしたが、本殿前の舞殿には3基の御神輿が飾られ、そのまわりは縄で境界がはられています。縄の外では大勢の人が何か始まるのを待っている様子です。「よくわからないけど、せつくだから見て行こう」ということになりました。

そのうちに「8時から、神様の御神霊をお神輿に遷すための神事が行われます。境内のあかりは全て消されます。たいへん厳粛な神事ですので、携帯電話の電源を切り、カメラなど光を発するものは使用しないでください。」という主旨の注意が流れました。神様を遷す神事！！見逃すわけにはいきません。

本殿では既に御祓いのような儀式が行われていました。すっかり夜の帳がおりて、空の星がいくつか見え始めた頃、境内の提灯や社務所など全ての灯りが消え、辺りは真っ暗に静まり返りました。

ご本殿の中から、白い大きな布で囲われた灯りが外へゆっくり出てきます。ポワッとひろがった布のなかで、ちいさな灯りがぼんやりと輝いています。琴の音が一定の間隔で「たららら～ん」と鳴り、祝詞をあげる低い声が響き、荘厳な空気があたりをたちこめています。灯りは3基の御神輿の間をおごそかにゆっくりゆっくり移動し、なにかを御神輿に収め、また御本殿に戻っていききました。

神事がおわり、電灯が灯った瞬間、息を殺して見守っていた観客から「おおつ」というため息のような声が漏れました。そこには、さきほどまでとはぜんぜん違う生き生きとした姿をした御神輿がありました。神が御遷りになったのです！

実をいうと神事の最中、わたしは頭を絞められるようで目をあけていられず、ときおり薄目で様子を伺っていたのですが、友人が云うには、往きはポワッと広がっていた白い布が、帰りには広がっていなかったそうですよ。

この御神事は「宵宮祭」というそうです。見えぬはずの神様の存在を肌に感じた神秘的な夜でした。

今年も猛暑になりそうですが、みなさまもどうかご自愛くださいませ。楽しい夏になりますように。



株式会社ユニコーン

大阪市中央区大手通 1-1-2

TEL06-6943-4560 FAX06-6920-5311